

# 南会津町中荒井地区、水無地区、田部地区

## 1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 実需者のニーズに合致した秋そばの早期出荷モデルを構築する。

## 2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【作付面積】そば（R3）79.5ha （R7）91.0ha
- そばは遊休農地を活用して作付け
- 生産したそばは玄そば、そば粉として販売するとともに、自社利用（飲食店）



## 3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

### <需要に応じた生産>

- 実需者から新そば早期出荷の要望があったことから、9月中旬から下旬に出荷可能な栽培体系の構築を目指す。

### <秋そばの播種の遅れを防ぐため、播種時期を早めた作型を導入>

- 南会津地域における秋そばの一般的な播種時期は、7月6半旬である。しかし、近年（H25～R4年）7月6半旬の耕耘作業可能日数が減少しており、播種の遅れや湿害が生じている。早期出荷とともに作業期間の拡大を目的として、南会津地域における早期播種作型の適応性を確認する。

## 4 取組成果

- 早期播種体系の令和7年の収量は95.6kg/10aであった。3か年の結果から、慣行のそばの収量には及ばないものの、十分な収量を確保できた。
- 加工業者から、製麺加工の適性があり、色味が優れているとの評価を受けた。

表 慣行（作柄判定ほ）と早期播種体系の3か年の比較

	慣行（作柄判定ほ）			早期播種体系		
	播種日 （月日）	成熟期 （月日）	収量※ （kg/10a）	播種日 （月日）	成熟期 （月日）	収量※ （kg/10a）
R5	7月23日	10月1日	70	6月20日	8月20日	89
R6	7月25日	10月1日	134	7月14日	9月13日	74
R7	7月29日	10月1日	122	7月1日	9月16日	96

※坪刈り収量

- 実証期間3か年の結果から、早期播種作型における収量・品質には慣行の秋そば同様に年次変動があるものの、目標である実需者からの需要に沿った早期出荷が可能かつ、十分な加工適性があることを確認した。

## 5 残された課題

- 作期拡大の観点から、早期播種体系について実証を行った。更なる栽培規模拡大に向け、8月1半旬以降の後期播種体系についても実証する必要がある。